

問 見栄と根拠のない楽観論では

答 人口減少の局面に入っている



佐藤 仁志 議員 新しい風やとみ

問 まちづくりは長いライフサイクルで考えていく必要があり、計画の基本である人口想定について目標値をもつのもいいが、現実的な推計値と使い分ける必要があるのでは。

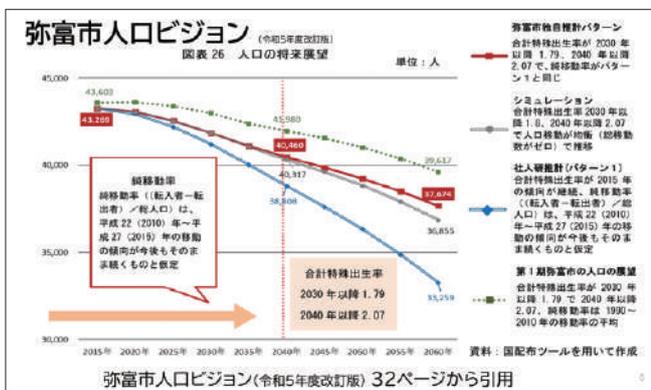
答 総務部長 施策に応じた、現状値等をふまえた推計値を用いることもある。

問 土地の需給関係が逆転している現状をふまえ、車新田で宅地が供給されると供給過剰が競合して市内の地価の値下がりの原因になるのでは。

答 建設部長 需要は十分ある地区であると認識し、土地区画整理事業が宅地等の値下がりに直接は結びつかないと考えている。

問 土地区画整理事業で工事単価の上昇、南海トラフ地震などのトラブルで、保留地を売っても、工費が払い切れない時でも、公費の追加や市で損失補填できないと考えるが、市の認識は。

答 都市整備課長 過去に実施した区画整理事業と不公平がないように、現在補助金や要綱を見直し中。補助金、公費は要綱に基づき補助する。



問 不祥事は経営者の責任では

答 課題をしっかりと洗い直す

小学校区別 65歳未満人口の推移

65歳未満	平成27年	令和元年	増減数	増減率	
北部	白鳥	4,065	3,964	▲101	▲2.5
	弥生	8,405	8,442	▲37	0.4
	桜	6,106	5,973	▲133	▲2.2
南部	日の出	6,904	6,954	50	0.7
	大藤	2,290	2,089	▲201	▲8.8
東部	栄南	2,105	1,885	▲220	▲10.5
	十四山東部	2,287	2,167	▲120	▲5.2
	十四山西部	1,683	1,554	▲129	▲7.7
市全体	33,845	33,028	▲817	▲2.4	

小学校区別人口は弥富市のホームページから引用

問 令和元年までの4年間で65歳未満の働く世代の人口が栄南は10・5%減、大藤8・8%減、十四山西部7・5・2%減、十四山西部7・7%減で減少が激しい。地域の活性化について農村地域の声を聞いて対策を考えているか。

答 総務部長 第2期弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画策定で、市民アンケート、ワークショップ、パブリックコメント等を実施し、外部委員で構成する会議体において協議をしている。

問 違法な会計処理や、議会承認を得ない契約などが続いているが不祥事は現場の問題ではない。手順書を作成していない、守らせなかった経営者の責任では。

答 副市長 今回ミスが度重なり、市民に心配、迷惑をかけ、お詫びをする。内部研修をしっかりと行うとともに、課題を洗い直して今後このようなことがないように努める。